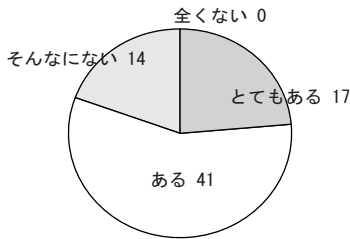


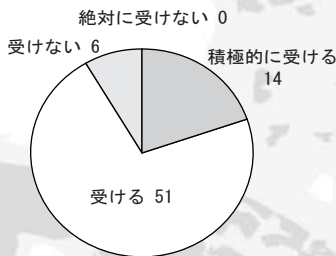
詳しい結果はWEBで紹介していますので、ここではこの中からいくつかの項目をピックアップして紹介しましょう。まずは学生向けアンケートからこの問です。

「天文学の広報普及活動に興味はありますか？」



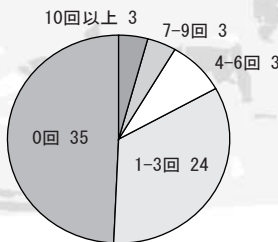
全体的に、天文学専攻の院生は天文学の普及活動に前向きである姿勢が見て取れます。このアンケートは「天文学と社会」分科会の会場で配布したのですが、この年のテーマは海外研究生生活でしたので、このアンケートの結果に対して大きなバイアスがかかってはいないと思えます。しかし、他の設問から明らかとなるのですが、このように興味は持っていますが実際に活動している学生さんとなると急激にその割合が落ちるようです。興味はあれど、なにをすればよいのやら・・・そんな学生さんの実態が見て取れるのではないのでしょうか。このような学生さんは、プラネタリアムとの協力に関してどのように考えているのでしょうか。

「プラネタリアムから協力を申し込まれたら承諾しますか？」



実に9割以上の学生は「受ける」と回答しています。上の結果と合わせて考えると、多くの学生さんは自分から積極的に活動を始めるというよりは、そのような機会があれば是非したい、と考えていると言えるでしょう。では、学生さんは、プラネタリアムにどの程度親しんでいるものなのでしょうか。

「ここ3年間でプラネタリアムに何回くらい行きましたか？」

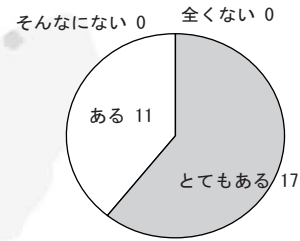


「3年間で0回」と答えた人間がほぼ半数を占めるという結果となりました。かく言う私(高梨)も、それほどプラネタリアムに足を運んできたわけではないので、ある意味ではとても納得のいく結果でもあります。行かない理由は、学生さんからの回答を要約しますと“綺麗だし、夢やロマンという言葉が似合う場所だけど、内容は子ども向けでいまいち”というものでした。これは平均的なプラネタリアム像には確かに当てはまっているかもしれません。しかし、実際には「天文学」の楽しみを人々に伝えていく事に対し、とても積極的なプラネタリアムも数多くあります。まずは学生とプラネタリアムがお互いの現状をよく知ること、これから活動を始めるべきなのでしょう。天プラではこの結果を受けて、プラネタリアム見学会なるものを企画しています。天文学の普及に熱心な館にお邪魔して、どのような取り組みが行われているのか、学生にはどのような役割が出来るのか、

そもそも最近のプラネタリアムとはどんなところなのか、といったことについて見識を広めていきたいと考えています。

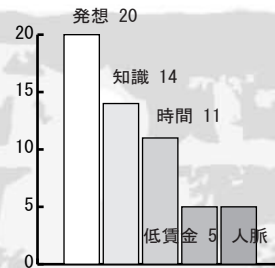
さて、一方でプラネタリアム側のみなさんは、学生との協力についてどのように考えているのでしょうか。

「天文学の普及に興味はありますか？」



結果は、「ある」「とてもある」あわせて100%でした。アンケート回収数は28ですので、全国のプラネタリアム300館中30館だと考えれば少なくとも10%の館は「天文学」の普及に興味を持っているということになります。もっとも、他の設問で明らかになるのですが、プラネタリアム関係者の中で「天文学」という言葉に持たしている意味は大きく分散しています。ましてや、天文学の研究の立場にいる人間の認識ともまたずれていることも大いに考えられます。ここら辺は、もうちょっとしっかりと調べていかないといけないでしょう。ただ、少なくとも後ろ向きな結果ではないことは確かです。このようなプラネタリアムは、私たち学生に何を期待しているものなのでしょうか。

「学生に期待するとしたら、以下のどれが該当するでしょう？」
(知識・発想力・人脈・低賃金・時間の自由度・その他)



事前の予想として、天文学の知識や労働力としてのコストの安さ、一線で活躍する研究者との人脈などが魅力的なものではないかと考えていましたが、結果は「発想力」がもっとも期待されているというものでした。ただ、このアンケートに答えてくれた館の多くは天文学の素養の高いスタッフさんが在籍するところがほとんどでしたので、この結果はあくまでも目安に過ぎません。しかし、少なくとも多種多様な期待が学生にはかけられていることがわかります。天プラの目指す多様性は、この需要に応えることができるのではないかと、こう期待できる結果がでたと考えています。

これらのアンケートは、今になって見返してみると内容が的確ではなかったり、現在の天プラの方針と微妙にずれていたりと色々反省の多いものです。しかし、天プラの重要な活動原点であることもまた事実です。この結果に触発を受け、色々議論が進むことを期待します。最後になりましたが、アンケートにご協力下さった皆様、どうもありがとうございました。